

全苗連だより

Vol. 32 (3月号)

平成29年3月31日

発行：全国山林種苗協同組合連合会

Tel.03-3262-3071 Fax.03-3262-3074

平成28年度地区別需給調整協議会の結果を取りまとめました

苗木の需要量は着実に増加の傾向、
コンテナ苗は生産量、需要量とも飛躍的に増加

平成28年度の地区別山林種苗需給調整協議会は、北から順に北海道・東北地区が12月5日福島市、関東地区が2月10日水戸市、東海・北陸地区が12月8日津市、近畿地区が11月17日奈良市、中国地区が11月28日神戸市、四国地区が12月19日徳島市、九州地区が11月15日鹿児島市において、林野庁・森林管理局、都道府県、林木育種センター、森林整備センター、都道府県苗組、県森連等の関係者が多数出席して、種子・穂木や山行苗木の需給実績と需給計画、造林計画と山行苗木の需給見込量等について協議が行われました。

また、この協議会においては、種子・穂木や山行苗木の移出・移入の可否並びに広範囲な需給調整のあり方、コンテナ苗生産の取組み状況、花粉症対策品種の生産見込み、優良苗木の安定供給に向けた生産体制支援対策及び担い手対策等についての国・都道府県への要望事項等について熱心な話し合いが行われました。

需給の動向について全国的な傾向をご理解いただくために、取り急ぎ第1表に地区別の、第2表に樹種別の需給見通しをとりまとめてみました。

第1表 地区別の山行苗木の需給見通し（概数を集計）

(単位:千本)

地区	需給見通し(H28秋～H29春)			需給見通し(H29秋～H30春)		
	生産量	需要量	過不足	生産量	需要量	過不足
北海道	25,061	16,643	8,418	17,751	17,057	694
東北	9,481	8,238	1,243	10,025	10,508	△ 483
関東	6,989	5,990	999	5,782	5,957	△ 175
中部	2,381	1,818	585	1,892	1,880	223
近畿中国	6,603	5,238	1,366	6,249	5,000	1,249
四国	2,324	2,460	△ 136	2,354	2,272	82
九州	14,810	13,081	1,730	15,420	13,213	2,207
計	67,649	53,468	14,204	59,473	55,887	3,797

第2表 樹種別の山行苗木の需給見通し（概数を集計）

（単位：千本）

樹種		需給見通し(H28秋～H29春)			需給見通し(H29秋～H30春)		
		生産量	需要量	過不足	生産量	需要量	過不足
スギ	総数	21,683	21,272	413	23,244	22,686	592
	うち花粉対策	5,245	4,994	253	6,811	5,242	1,603
ヒノキ	総数	8,831	7,206	1,625	8,441	7,305	1,136
	うち花粉対策	51	80	△ 29	599	743	△ 144
トドマツ・エゾマツ		10,278	6,236	4,042	7,725	6,331	1,394
カラマツ		15,791	14,083	1,708	11,936	14,893	△ 2,957
アカマツ	総数	720	272	448	315	184	131
	うち抵抗性	620	267	354	229	179	51
クロマツ	総数	2,487	1,603	883	2,584	2,054	531
	うち抵抗性	1,801	1,360	441	1,956	1,840	117
小計		59,789	50,672	9,119	54,246	53,453	827
その他		7,860	2,795	5,085	5,226	2,434	2,969
計		67,649	53,468	14,204	59,473	55,887	3,797
コンテナ苗 (再計)		8,260	9,157	△ 895	9,004	12,542	△ 3,522

なお、この度の情報につきましては、一部、森林管理局、森林整備センターの需要量を計上していない部分もあり、確定数値ではありません。それから、地区別の集計につきましては、地区協議会毎の集計ですと一部県のデータが重複することから、苗木に係る情報が扱われている原木等需給情報共有化対策事業の地区区分に従っています。なお、都道府県ごとの数値は、追って情報連絡する予定にしております。

第3表は、需給見通し等の全国計についてH26年度(H26秋～H27春)及びH27年度(H27秋～H28春)当時のデータを加えて再掲したものです。

まず、生産の元となる需要量ですが、1ケタ台ではあるものの堅調な伸びを示してきています。正確には統計情報からの分析が必要ですが、このデータからは、長期にわたり右肩下がりが続いた苗木需要量がH26あたりで底を打ったと考えられます。これに呼応するように生産量が伸び始めています。H27年度が前年比107%と大幅に伸び6千万本台に回復しています。H28は前年比109%と続伸しています。なお、H29年度(H29秋～H30春)の伸び率が鈍化しているように見えますが、これから作業の始まるH29春植え以降の実績などを反映しながら変わっていくと考えられます。

次に、コンテナ苗の動向ですが、生産量並びに需要量が大幅に伸びています。まず、生産量ですが、毎年ほぼ二桁の伸びとなっており、H29には9百万本台に到達しそうです。コンテナ苗の生産量に占める比率ですが、H28(H28秋～H29春)に全生産量の12%と初めて1割を超えました。H29には15%に達する勢いです。需要量も大幅な伸びを示しておりH29には初めて1千万本を超え1千2百万本台にまで伸びそうです。コンテナ苗の需要量に占める比率も伸び続け、H27に初めて総需要量の1割を超えましたが、H29には2割を超える勢いです。

第3表 山行苗木の需給見通し等経年推移（概数を集計）

(単位:千本)

需給見通し等	生産量			需要量			過不足
		シェア %	前年比 %		シェア %	前年比 %	
(H29秋～H30春)	59,473		88	55,887		105	3,797
うちコンテナ苗	9,004	15	109	12,542	22	137	△ 3,522
(H28秋～H29春)	67,649		109	53,468		100	14,204
うちコンテナ苗	8,260	12	195	9,157	17	145	△ 895
(H27秋～H28春)	61,968		107	53,566		105	△ 8,402
うちコンテナ苗	4,236	7	166	6,325	12	336	△ 2,089
(H26秋～H27春)	57,777			51,140			6,637
うちコンテナ苗	2,547	4		1,880	4		667

【訂正】

全苗連だより 2月号で掲載しました齋藤豊彦氏の講演内容で、一部に記載ミスがありましたので、関係各位には謹んでお詫び申し上げますとともに下記のとおり訂正いたします。

(誤)

◎ 高品質のコンテナ苗完成品を目指す 10 の重要ポイント

- ① コンテナの扱い：再生産に使用する古いマルチキャビティコンテナは、洗浄し、また使用直前に殺菌消毒する。
- ② 播種の際の種子の取り扱い：乾燥させすぎない。

種子消毒 ex.農薬名「イチバン」に浸潤処理

鳥害防止用の忌避剤 等

(正)

◎ 高品質のコンテナ苗完成品を目指す 10 の重要ポイント

- ① コンテナの扱い：再生産に使用する古いマルチキャビティコンテナは、洗浄し、また使用直前に殺菌消毒する。
コンテナ消毒 ex.農薬名「イチバン」に浸潤処理
- ② 播種の際の種子の取り扱い：乾燥させすぎない。

種子消毒

鳥害防止用の忌避剤 等

全苗連・苗組の行事予定

4月21日 全苗連事業監査

5月12日 (会場仮予約) 全苗連理事会

5月26日 (会場仮予約) 全苗連総会

9月 7日 全苗連生産者の集い(福岡市 都久志(つくし)会館)

～8日

